

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2022年2月14日
【四半期会計期間】	第56期第2四半期（自 2021年10月1日 至 2021年12月31日）
【会社名】	株式会社平山ホールディングス
【英訳名】	HIRAYAMA HOLDINGS Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 平山 善一
【本店の所在の場所】	東京都港区港南一丁目8番40号 A-PLACE品川6階
【電話番号】	03-5769-4680（代表）
【事務連絡者氏名】	グループ業務管理本部 本部長代理 福井 三佐子
【最寄りの連絡場所】	東京都港区港南一丁目8番40号 A-PLACE品川6階
【電話番号】	03-5769-4680（代表）
【事務連絡者氏名】	グループ業務管理本部 本部長代理 福井 三佐子
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第55期 第2四半期連結 累計期間	第56期 第2四半期連結 累計期間	第55期
会計期間	自2020年7月1日 至2020年12月31日	自2021年7月1日 至2021年12月31日	自2020年7月1日 至2021年6月30日
売上高 (千円)	10,897,128	13,411,827	23,043,217
経常利益 (千円)	266,898	404,978	645,675
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	162,939	212,648	413,462
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	163,927	223,236	403,905
純資産額 (千円)	2,948,495	3,295,096	3,190,348
総資産額 (千円)	7,718,367	8,262,818	8,174,788
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	47.63	62.02	120.80
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	44.00	57.16	111.64
自己資本比率 (%)	38.1	39.9	39.0
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	587,018	50,018	893,327
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	22,217	302,156	70,673
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	236,431	296,566	393,291
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	3,608,528	3,296,413	3,848,058

回次	第55期 第2四半期連結 会計期間	第56期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自2020年10月1日 至2020年12月31日	自2021年10月1日 至2021年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	37.11	37.26

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、当第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結会計期間に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。詳細については、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(会計方針の変更)」に記載しております。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、平山グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において平山グループが判断したものであります。

なお、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2021年3月26日)を第1四半期連結会計期間の期首より適用しております。詳細につきましては、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項(会計方針の変更)」に記載しております。

#### (1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、2021年12月13日発表の全国企業短期経済観測調査(短観)にみられるとおり、大企業製造業の景況感を示す業況判断指数(DI)はプラス18と、9月調査比で横ばいでした。コロナウイルスの感染者は減りましたが、世界的な物流の混乱が続く中、エネルギー価格の上昇も重なり、コストが上昇しました。大企業非製造業の業況判断DIはプラス9と、6期連続で改善しました。緊急事態宣言が解除され、小売、飲食などで客足が回復しておりました。

一方、2021年11月の失業率は2.8%と前月から0.1ポイント上昇し、コロナ禍で自らのキャリアを見直す人が増えており、失業者のうち、「自発的な離職(自己都合)」が増える一方、リストラなど「非自発的な離職」は48万人で前月比横ばいでした。また有効求人倍率も1.15倍と前月から横ばいでした。経済活動の再開に伴って、有効求職者数、有効求人数ともに前月から小幅に伸びました。

このような環境下、平山グループは、自動車関連分野において、半導体の供給制約により一部生産が先送りされたものの、医療機器分野及び食品製造分野が底堅く推移したこと、住設関連部材、農業用機械及び物流等が好調だったことから、概ね計画どおりの売上高となりました。利益面では、請負職場での現場改善及び受注単価の高い案件を獲得したこと、販売費及び一般管理費においてDX化やRPAを活用するなど効率的に使用したことから、計画を上回る結果を出すことができました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高13,411,827千円(前年同四半期比23.1%増)、営業利益390,946千円(前年同四半期比88.5%増)、経常利益は助成金収入29,027千円等により営業外収益48,792千円を計上した一方、為替差損31,682千円等により営業外費用34,759千円を計上したことから404,978千円(前年同四半期比51.7%増)となりました。なお、親会社株主に帰属する四半期純利益(法人税等控除後)は法人税等を191,396千円計上したことから212,648千円(前年同四半期比30.5%増)となりました。

セグメント別の業績の概況は、次のとおりです。

なお、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントの利益又は損失の算定方法及び報告セグメントの区分を変更しており、前年同四半期比較については前年同四半期の数値を変更後の数値で比較しております。

#### インソーシング・派遣事業

インソーシング・派遣事業につきましては、自動車関連分野において第1四半期では半導体の供給制約により一部生産が先送りされたものの、当第2四半期はリカバリー生産により旺盛な需要があったこと、医療機器分野の増産による人員増員に加え新規取引先を順調に獲得できたこと、食品製造分野がオリンピック・パラリンピック後の落ち込みの影響もなく底堅く推移したこと、住設関連部材、農業用機械及び物流等が好調だったことから、概ね計画どおりの売上高となりました。また、利益面では、現場改善を継続して行い収益改善に努めるとともに、上記の新規・既存受注が好調であったことから積極的に人材採用を進めるとともに、人材教育に資源を投入することで増益を確保いたしました。

採用面では、新卒採用者が定着し生産安定に寄与する一方、中途採用においては経済回復とともに、徐々に採用環境が厳しくなり始めておりますが、採用ルートを多様化することで、増員することができました。

この結果、売上高は11,023,674千円(前年同四半期比21.1%増)、セグメント利益は764,061千円(前年同四半期比32.6%増)となりました。

#### 技術者派遣事業

技術者派遣事業につきましては、主要顧客の大手製造業の一部ではコロナ禍に対応するべく業界再編とともに技術開発投資の持ち直しもみられ、IT関連技術者を中心に当社の受注は回復基調となりました。

一方、人材採用面では中長期の成長を見据え採用活動を強化しておりますが、業界の人手不足感が強まっており経験者、未経験者を問わず技術者確保に苦戦を強いられ厳しい状況となりました。このような状況に対し平山グ

ループでは、未経験者の教育・育成プログラムや平山グループ企業内の非技術系人材の技術者転換プログラムにより技術者確保の新たな仕組みを確立することにより、一部の顧客ニーズに対応いたしました。

利益面では、コロナ禍後の業容拡大に向け人員を増員したこと、教育コストがかさんだものの、前期より黒字化したITエンジニア派遣部門が貢献したことから前年同四半期比で微増となりました。

この結果、売上高は1,050,262千円（前年同四半期比23.8%増）、セグメント利益は24,143千円（前年同四半期比4.7%増）となりました。

#### 海外事業

海外事業におきましては、主力のタイにおいて、製造業生産指数が、2021年1～3月期前年同四半期比プラス0.8%、2021年4～6月期前年同四半期比プラス20.6%、2021年7～9月期前年同四半期比マイナス0.2%となり、マイナス成長からの回復基調にありましたが、デルタ株の影響により足踏み状態となりました。このような環境の下、タイにおける平山グループの派遣従業員数は、顧客ニーズを捉え、2021年9月時点で前年同月比56.8%増となりました。

利益面では、前期からの受注単価の引き上げと高利益率の案件獲得に注力するとともに、効率的な運営体制を構築したことが奏功し、黒字転換を果たしました。

この結果、売上高は1,024,413千円（前年同四半期比63.2%増）、セグメント利益は24,552千円（前年同四半期はセグメント損失49,291千円）となりました。

注：海外事業につきましては、4～9月期実績を3ヶ月遅れで当第2四半期連結累計期間に計上しております。

#### その他事業

その他事業につきましては、現場改善コンサルティング事業及び海外からの研修ツアーが、依然としてコロナ禍の影響により海外との往来が制限されている状況にあるものの、WEBセミナー及びリモート指導事業の取組みを積み重ねた結果、9月以降は国内外からの引き合い、問合せが増え続け、安定した売上が期待できる状況になりました。現場改善コンサルティング事業については国内製造関連に加え、これまで開拓があまり進んでいなかった中近東、アフリカと東南アジアを中心に顧客開拓が進み、着実に売上高に寄与し始めております。さらには、新規工場設置ニーズを捉え、工場立上げの支援コンサルティングを展開しております。

利益面では、外国人雇用管理サポート事業が外国人の入国制限がある中で、事業戦略の修正と経費削減などにより収益化の目処が立ったこと、収益率の高い訪問型現場改善コンサルティング事業の売上高が夏季まで減少が続いたものの、9月以降回復がみられたことから、当第2四半期連結累計期間において黒字を確保いたしました。

この結果、売上高は313,477千円（前年同四半期比2.6%減）、セグメント利益は19,015千円（前年同四半期比300.0%増）となりました。

### (2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は8,262,818千円となり、前連結会計年度末に比べ88,029千円増加いたしました。主な要因は、受取手形及び売掛金が192,345千円、有形固定資産が136,410千円、投資その他の資産が196,488千円それぞれ増加するなどした一方で、現金及び預金が536,644千円減少したこと等によるものであります。

負債合計は4,967,722千円となり、前連結会計年度末に比べ16,717千円減少いたしました。主な要因は、未払金が156,392千円、未払法人税等が217,163千円それぞれ増加した一方で、1年内返済予定の長期借入金が96,668千円、長期借入金が78,168千円減少したこと等によるものであります。

純資産合計は3,295,096千円となり、前連結会計年度末に比べ104,747千円増加いたしました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益を212,648千円計上した一方で、配当金の支払により130,132千円の減少があったことなどから、利益剰余金が81,551千円増加したこと等によるものであります。

### (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ551,644千円減少し、3,296,413千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金の増加は、50,018千円（前年同四半期は587,018千円の増加）となりました。これは、主に税金等調整前四半期純利益403,996千円の計上、未払金の増加154,861千円、預り金の増加299,553千円などにより資金の増加があった一方で、売上債権の増加205,834千円、未払消費税等の減少598,087千円などによる資金の減少があったことによるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金の減少は、302,156千円（前年同四半期は22,217千円の減少）となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出150,745千円、投資有価証券の取得による支出135,000千円などがあったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動による資金の減少は、296,566千円（前年同四半期は236,431千円の減少）となりました。これは、主に長期借入金の返済による支出174,836千円、配当金の支払額129,912千円などがあったことによるものであります。

（4）経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、平山グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

（5）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、平山グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

（6）研究開発活動

該当事項はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	14,350,400
計	14,350,400

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2021年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2022年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,632,200	3,651,400	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	3,632,200	3,651,400	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、2022年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高(千円)
2021年10月1日～ 2021年12月31日(注)	23,800	3,632,200	7,318	447,897	7,318	347,897

(注)1. 新株予約権の行使による増加であります。

2. 2022年1月1日から2022年1月31日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が19,200株、資本金及び資本準備金がそれぞれ5,296千円増加しております。

## ( 5 ) 【大株主の状況】

2021年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社スリーアローズ	静岡県裾野市葛山625- 7	852,000	24.71
平山 善一	静岡県裾野市	586,400	17.01
平山 恵一	兵庫県芦屋市	394,800	11.45
ハクトコーポレーション株式会社	兵庫県芦屋市岩園町15-24	255,600	7.41
NOMURA PB NOMINEES LIMITED	1 ANGEL LANE, LONDON, EC4R 3AB, UNAITED KINGDOM	144,300	4.18
OMNIBUS-MARGIN(CASHPB) (常任代理人 野村證券株式会社)	(東京都中央区日本橋 1 丁目13- 1 )		
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) (常任代理人 香港上海銀行)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT, UK (東京都中央区日本橋 3 丁目11- 1 )	110,000	3.19
平山 智一	福岡県福岡市城南区	99,800	2.89
平山従業員持株会	東京都港区港南 1 丁目 8 -40 A-PLACE品川 6 階	86,000	2.49
MSIP CLIENT SECURITIES (常任代理人 モルガン・スタンレー MUFG証券株式会社)	25 CABOT SQUARE, CANARY WHARF, LONDON E14 4QA, U. K. (東京都千代田区大手町 1 丁目 9 - 7 大手町 フィナンシャルシティ サウスタワー)	81,300	2.35
平山 上一	山口県下関市	80,800	2.34
計	-	2,691,000	78.06

## ( 6 ) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

2021年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 185,200	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,446,200	34,462	-
単元未満株式	普通株式 800	-	-
発行済株式総数	3,632,200	-	-
総株主の議決権	-	34,462	-

## 【自己株式等】

2021年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社平山ホールディングス	東京都港区港南一丁目8番40号 A-PLACE品川6階	185,200	-	185,200	5.10
計	-	185,200	-	185,200	5.10

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2021年10月1日から2021年12月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年7月1日から2021年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、爽監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	3,882,058	3,345,413
受取手形及び売掛金	2,798,643	2,990,988
未収還付法人税等	206,432	265,239
その他	307,868	373,063
貸倒引当金	40,744	45,172
流動資産合計	7,154,258	6,929,531
<b>固定資産</b>		
有形固定資産	276,996	413,406
無形固定資産	134,056	113,913
投資その他の資産		
その他	720,269	806,184
貸倒引当金	110,792	218
投資その他の資産合計	609,477	805,965
固定資産合計	1,020,530	1,333,286
資産合計	8,174,788	8,262,818
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
1年内返済予定の長期借入金	348,024	251,356
未払金	1,945,668	2,102,060
未払法人税等	20,276	237,439
賞与引当金	132,357	151,485
その他	1,318,169	1,038,189
流動負債合計	3,764,495	3,780,531
<b>固定負債</b>		
長期借入金	217,831	139,663
退職給付に係る負債	621,764	672,287
役員退職慰労引当金	313,363	313,363
その他	66,985	61,877
固定負債合計	1,219,944	1,187,191
負債合計	4,984,439	4,967,722
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	440,578	447,897
資本剰余金	360,509	367,828
利益剰余金	2,545,250	2,626,801
自己株式	157,021	158,826
株主資本合計	3,189,317	3,283,700
<b>その他の包括利益累計額</b>		
為替換算調整勘定	61	10,494
その他の包括利益累計額合計	61	10,494
新株予約権	960	889
非支配株主持分	9	12
純資産合計	3,190,348	3,295,096
負債純資産合計	8,174,788	8,262,818

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)
売上高	10,897,128	13,411,827
売上原価	9,002,500	11,011,368
売上総利益	1,894,628	2,400,459
販売費及び一般管理費	1,687,252	2,009,513
営業利益	207,376	390,946
営業外収益		
為替差益	1,797	-
助成金収入	49,942	29,027
その他	15,364	19,765
営業外収益合計	67,104	48,792
営業外費用		
支払利息	6,373	1,800
為替差損	-	31,682
その他	1,208	1,276
営業外費用合計	7,581	34,759
経常利益	266,898	404,978
特別利益		
消費税等簡易課税差額収入	44,221	-
投資有価証券売却益	236	-
特別利益合計	44,458	-
特別損失		
固定資産除却損	-	982
関係会社株式評価損	12,955	-
特別損失合計	12,955	982
税金等調整前四半期純利益	298,400	403,996
法人税、住民税及び事業税	150,958	274,687
法人税等調整額	11,793	83,291
法人税等合計	139,165	191,396
四半期純利益	159,235	212,600
非支配株主に帰属する四半期純損失( )	3,703	47
親会社株主に帰属する四半期純利益	162,939	212,648

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益	159,235	212,600
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	4,467	10,635
持分法適用会社に対する持分相当額	224	-
その他の包括利益合計	4,692	10,635
四半期包括利益	163,927	223,236
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	168,804	223,080
非支配株主に係る四半期包括利益	4,877	155

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	298,400	403,996
減価償却費	26,103	32,246
のれん償却額	12,765	3,637
貸倒引当金の増減額(は減少)	1,402	106,144
賞与引当金の増減額(は減少)	30,419	19,212
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	41,173	50,523
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	2,100	-
受取利息及び受取配当金	323	118
支払利息	6,373	1,800
為替差損益(は益)	249	31,682
固定資産除却損	-	982
関係会社株式評価損	12,955	-
売上債権の増減額(は増加)	110,744	205,834
未収入金の増減額(は増加)	67,394	45,675
破産更生債権等の増減額(は増加)	218	110,573
未払費用の増減額(は減少)	3,120	9,600
未払金の増減額(は減少)	26,986	154,861
未払消費税等の増減額(は減少)	205,884	598,087
預り金の増減額(は減少)	264,366	299,553
その他	28,441	5,348
小計	849,028	168,159
利息及び配当金の受取額	139	80
利息の支払額	6,316	1,848
法人税等の支払額	334,036	181,670
法人税等の還付額	78,204	65,298
営業活動によるキャッシュ・フロー	587,018	50,018
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の純増減額(は増加)	18,000	15,000
有形固定資産の取得による支出	6,077	150,745
無形固定資産の取得による支出	2,390	-
投資有価証券の取得による支出	-	135,000
関係会社株式の売却による収入	-	10,109
敷金及び保証金の回収による収入	10,561	18,121
敷金及び保証金の差入による支出	7,271	27,835
その他	962	1,805
投資活動によるキャッシュ・フロー	22,217	302,156
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	40,000	-
長期借入金の返済による支出	174,836	174,836
自己株式の取得による支出	48	1,805
配当金の支払額	102,324	129,912
新株予約権の行使による株式の発行による収入	4,074	14,565
その他	3,296	4,579
財務活動によるキャッシュ・フロー	236,431	296,566
現金及び現金同等物に係る換算差額	127	2,939
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	328,497	551,644
現金及び現金同等物の期首残高	3,280,030	3,848,058
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,608,528	3,296,413

【注記事項】

(会計方針の変更)

1. 収益認識に関する会計基準等の適用

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。収益認識会計基準等の適用により、有料職業紹介売上における早期退職返金条項につき、返金されると見込まれる財又はサービスの対価に関し、変動対価に関する定めに従って、販売時に収益を認識せず返金負債とする方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第2四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

収益認識会計基準等の適用が四半期連結財務諸表に及ぼす影響は軽微であります。

2. 時価の算定に関する会計基準等の適用

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

当社は、現時点で日設工業株式会社の株式を取得し、議決権の20%以上を保有しておりますが、現時点では財政及び営業又は事業の方針の決定に対して重要な影響を与えていないため、関連会社としておりません。

(四半期連結貸借対照表関係)

当座貸越契約

当社及び連結子会社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行3行と当座貸越契約を締結しております。この契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2021年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
当座貸越極度額	1,000,000千円	1,000,000千円
借入実行残高	-	-
差引額	1,000,000千円	1,000,000千円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)
給与及び賞与	702,651千円	775,558千円
賞与引当金繰入額	33,025	33,366
退職給付費用	7,230	6,967
貸倒引当金繰入額	1,931	3,887

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)
現金及び預金勘定	3,860,839千円	3,345,413千円
預入期間が3か月を超える 定期預金	252,310千円	49,000千円
現金及び現金同等物	3,608,528千円	3,296,413千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年9月25日 定時株主総会	普通株式	102,473	30.00	2020年6月30日	2020年9月28日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年9月28日 定時株主総会	普通株式	130,132	38.00	2021年6月30日	2021年9月29日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額には、特別配当8円を含んでおります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損 益計算書計上 額(注)3
	インソーシ ング・派遣 事業	技術者派遣 事業	海外事業	計				
売上高								
外部顧客 への売上 高	9,099,564	848,152	627,693	10,575,410	321,717	10,897,128	-	10,897,128
セグメン ト間の内 部売上高 又は振替 高	-	5,783	-	5,783	45,715	51,498	51,498	-
計	9,099,564	853,936	627,693	10,581,194	367,433	10,948,627	51,498	10,897,128
セグメント 利益又は損 失( )	576,092	23,062	49,291	549,862	4,754	554,616	347,240	207,376

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、当社グループが行っているコンサルティング事業・教育事業・有料職業紹介事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額 347,240千円の内訳は、セグメント間取引消去31,189千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 378,429千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結損 益計算書計上 額(注)3
	インソーシ ング・派遣 事業	技術者派遣 事業	海外事業	計				
売上高								
外部顧客 への売上 高	11,023,674	1,050,262	1,024,413	13,098,350	313,477	13,411,827	-	13,411,827
セグメン ト間の内 部売上高 又は振替 高	600	3,392	1,821	5,813	45,379	51,193	51,193	-
計	11,024,274	1,053,655	1,026,235	13,104,164	358,856	13,463,021	51,193	13,411,827
セグメント 利益	764,061	24,143	24,552	812,757	19,015	831,773	440,826	390,946

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、当社グループが行っているコンサルティング事業・教育事業・有料職業紹介事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額 440,826千円の内訳は、セグメント間取引消去37,031千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 477,858千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの利益又は損失の算定方法の変更及び報告セグメント区分の変更)

第1四半期連結会計期間より、報告セグメントごとの業績をより適切に反映するために、全社費用の配賦方法を見直し、報告セグメントの利益又は損失の算定方法の変更を行っております。また、従来「その他」に含めておりました一部の事業につきましては、「技術者派遣事業」の区分に含めております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報につきましては、変更後の算定方法、区分により作成したものを記載しております。

(会計方針の変更)

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの利益又は損失の算定方法を同様に変更しております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当第2四半期連結累計期間(自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計額
	インソーシ ング・派遣事業	技術者派遣 事業	海外事業	計		
売上高						
(1)顧客との契約から生 じる収益	11,023,674	1,050,262	1,024,413	13,098,350	313,477	13,411,827
(2)その他の収益	-	-	-	-	-	-
外部顧客への 売上高	11,023,674	1,050,262	1,024,413	13,098,350	313,477	13,411,827

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、コンサルティング事業・教育事業・有料職業紹介事業等を含んでおります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年7月1日 至 2020年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年7月1日 至 2021年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	47円63銭	62円02銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	162,939	212,648
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 (千円)	162,939	212,648
普通株式の期中平均株式数(株)	3,420,711	3,428,492
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	44円00銭	57円16銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額 (千円)	-	-
普通株式増加数(株)	282,784	291,767
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当 たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年2月14日

株式会社平山ホールディングス  
取締役会 御中

爽監査法人  
東京都千代田区

代表社員  
業務執行社員 公認会計士 熊谷 輝美 印

業務執行社員 公認会計士 貝沼 彩 印

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社平山ホールディングスの2021年7月1日から2022年6月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2021年10月1日から2021年12月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（2021年7月1日から2021年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社平山ホールディングス及び連結子会社の2021年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

・継続企業的前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

・四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表

の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

・四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。